

年頭にあたって

岩見沢市長 渡辺 孝一

市民の皆様、あけましておめでとございませう。

新春を迎え、私は、今年も市民の皆様の声をしっかり受け止めながら、一緒に考え、汗を流し、「人にやさしい温かい街づくり」を着実に前進させることに、全力を尽くす決意を新たにしております。

昨年、岩見沢市、北村、栗沢町が合併したことは、地域を見つめ直し、新しい歴史を築く、新たなまちづくりに向けての大きなチャンスの始まりであると考えております。

また、その一方で、60年を超える歴史のあるばんえい競馬の存廃においては、厳しい判断をしなければならぬ年でもありました。

ここ数年、地方を取り巻く環境は、地域経済の低迷に加え、地方分権の推進や厳しい財政環境など、多くの課題が山積しています。このような厳しい状況の中、将来を見据え、地域の特性や資源を活用し、市民の皆様が、安心して暮らすことのできるまち、住みやすいまちと言われるようなまちづくりを目指して、新しい総合計画の策定と徹底した行財政改革に取り組んでおります。

「人にやさしい温かい街づくり」を進めるための重点課題であります福祉・医療・教育の充実につきましても、就学前乳幼児の医療費を無料とする制度の継続、子育てに関する相談や支援の充実、介護予防の拠点となる地域包括支援センターの設置などを進めております。また、地域医療の中核を担う市立総合病院や市立栗沢病院における医療基盤の拡充・整備、学校施設の整備・改修、さらには、芸術・スポーツの北の拠点となった北海道教育大学岩見沢校との連携推進など、岩見沢の将来をしっかりと見据え、すべての人にやさしいまちづくりを進めてまいります。

地域産業・経済の活性化につきましては、空き店舗を活用したイベントや事業者自らが取り組む事業への支援、IT基盤を活用した産業集積の促進や新規起業者の育成、また、農業の持続的な発展と農村の振興を目指し、後継者の育成支援、岩見沢ブランドの確立や地産地消の推進など、活力のある岩見沢を創造してまいります。

住民自治につきましても、モデル地区での活動をもとに、地域づくりの具現化を進めるとともに、防災、福祉、除排雪など様々な分野で、市民と行政とが協働する仕組みづくりを進めてまいりたいと考えております。

さらには、地域の皆様が中心となって行う防災訓練や自主防災組織の育成など、災害から市民の皆様と生命と財産を守り、コミュニティの安全と市民生活の安心を高める取り組みも積極的に行ってまいります。

待望のJR岩見沢駅の建設は、駅舎部分はその姿を現し始めました。この駅舎の建設と併せ、駅北、駅南地区の連携につながる南北自由通路や駅北駅前広場、駐輪場などの整備も始まるつとしており、中心市街地の活性化とにぎわい創出に、大きな期待をしております。私たちのまちの将来に大きな夢を持ち、そしてその夢の実現に向け、市民の皆様全てが一体となってこそ、まちが元気になり、住みやすいまちになります。

私はこれからも市民の皆様の声に耳を傾け、皆様とともに新しい岩見沢の未来を思い描き、夢のある元気なまちの実現を目指し、山積する課題に果敢に挑戦してまいりますので、引き続き力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が市民の皆様にとりまして、夢と希望に満ちた年でありますよう心からご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

平成19年 元旦



市長室開放で訪れた高校生と